

2019年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2018年8月7日

株式会社 **クレスコ**

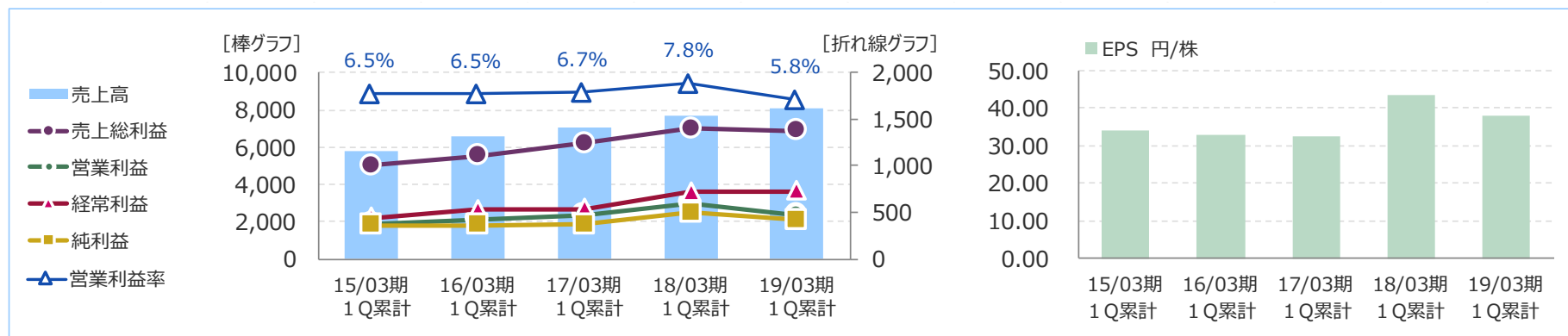
The background of the slide is a repeating blue geometric pattern on a white background. The pattern consists of interlocking lines that form a series of small, irregular shapes, creating a complex, maze-like texture. This pattern covers the top and bottom portions of the slide, while the central area is a plain white rectangle containing the text.

① 決算のポイント

[単位：百万円未満切捨]

- 第1四半期の事業環境自体は前年度と大きく変わらず、業種・業態で濃淡があるものの、IT投資の需要は旺盛。
- 売上高・経常利益は、増収増益。営業利益、四半期純利益は、減益。
 - 主なマイナス要因は、不採算プロジェクトの発生、開発人員の不足、販管費の増加。
 - 経常利益の増益要因は、外国株の有価証券評価益。

1 Q 累 計		17/03期		18/03期		19/03期		前年 同期比	対上期 進捗率
	売上高		7,014		7,659		8,113		105.9%
売上総利益		1,240	(17.7%)	1,400	(18.3%)	1,377	(17.0%)	98.3%	
営業利益		470	(6.7%)	597	(7.8%)	472	(5.8%)	79.0%	31.9%
経常利益		535	(7.6%)	719	(9.4%)	725	(8.9%)	100.8%	44.8%
純利益		368	(5.3%)	495	(6.5%)	413	(5.1%)	83.5%	37.8%
EPS 円/株		32.6		43.69		37.83			

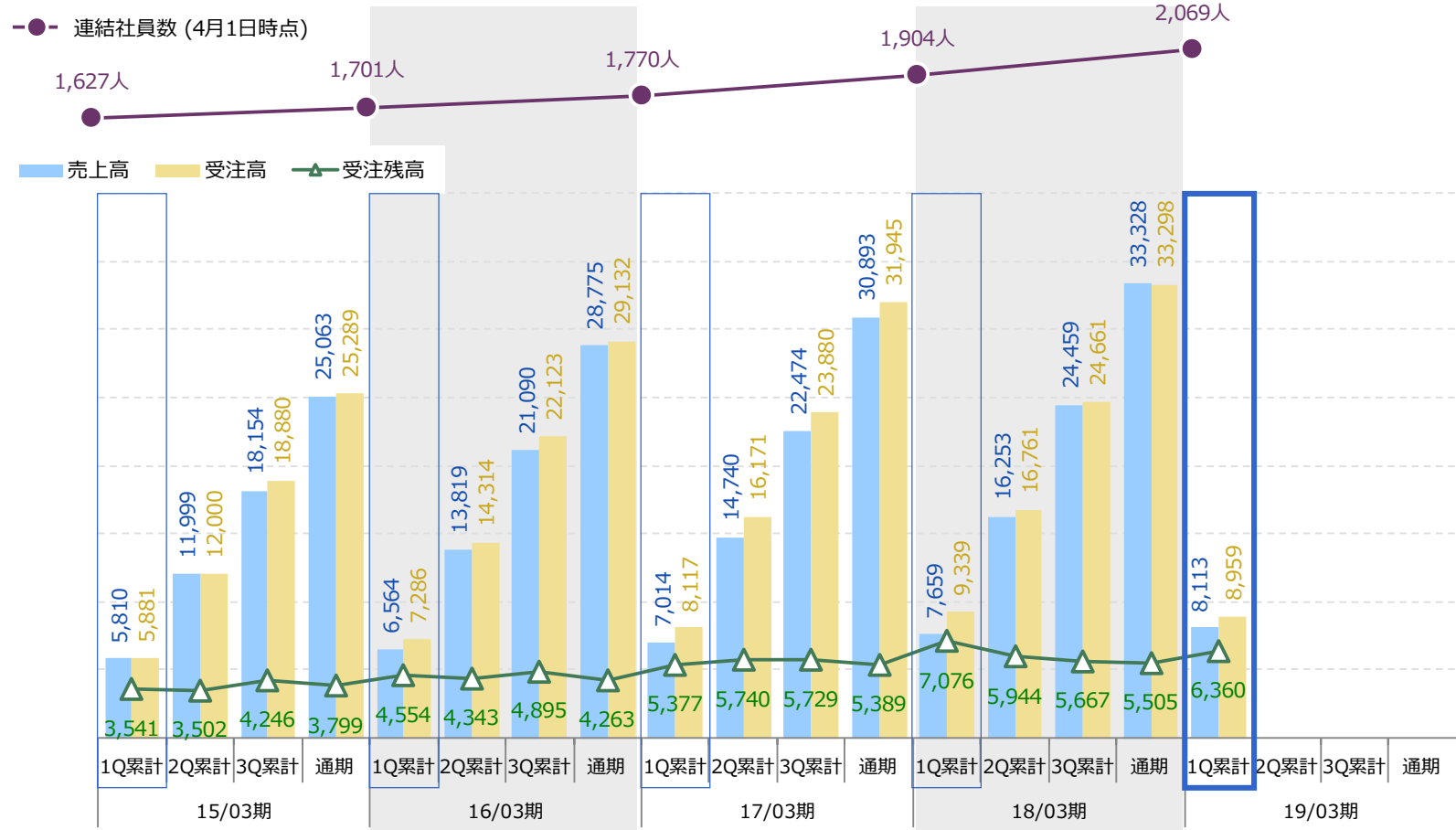


【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

1.2. 受注高・受注残高 連結

[単位：百万円未満切捨]

- 顧客の引合いは、デジタル変革を背景に概ね順調。
 - ・ソフトウェア開発 … 金融セグメントの受注が想定以上に減少。
 - ・組込み型ソフトウェア開発 … カーエレクトロニクス、情報家電・その他の引合いが増加。
- 受注高 : 前年1Q累計比 95.9%
- 受注残高 : 前年比 89.9%



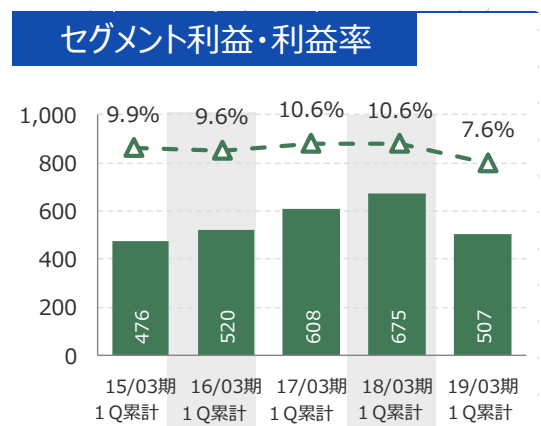
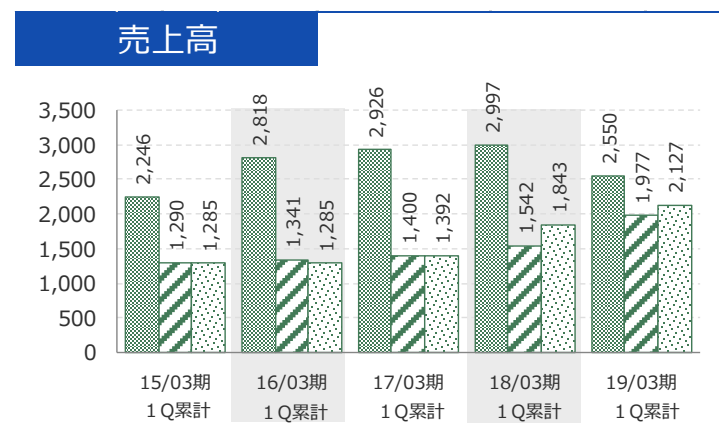
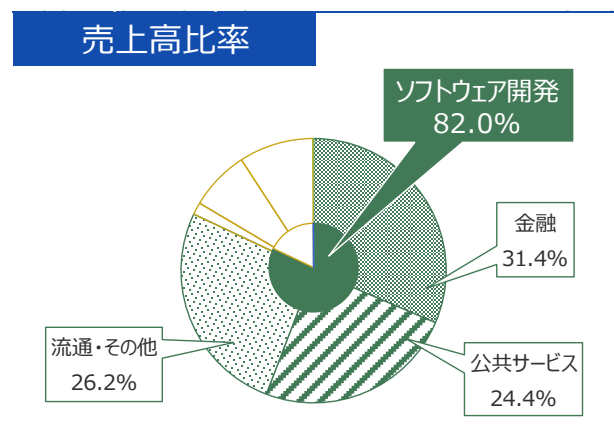
[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェア開発

- 金融 … メガバンクの大型案件一巡の影響をリカバリーし切れず、前年対比でマイナスに。
- 公共サービス … 受注は増加するも、人材および旅行関連の一部のプロジェクトで不採算が発生。
- 流通・その他 … 受注は計画どおりだったが、子会社の一部のプロジェクトで不採算が発生。
- 品質管理に課題。顧客の変化に即したポートフォリオの見直し、リソースのシフトを実施。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
1 Q 累 計	ソフト ウェア 売上高	金融	2,926	2,997	2,550	85.1%
		公共サービス	1,400	1,542	1,977	128.2%
		流通・その他	1,392	1,843	2,127	115.4%
			5,718	6,383	6,655	104.3%
	セグメント利益	608 (10.6%)	675 (10.6%)	507 (7.6%)	75.1%	

【注】 () 内の数字は利益率を表します。



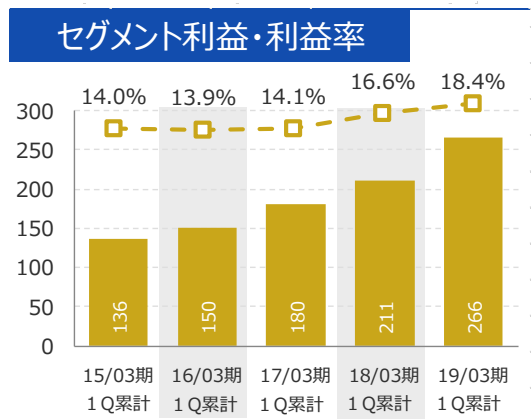
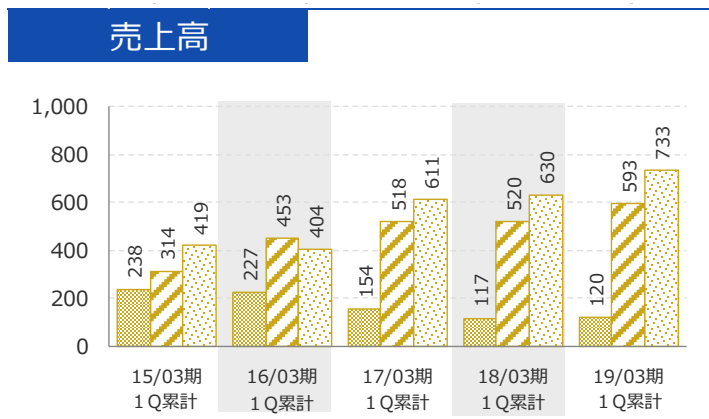
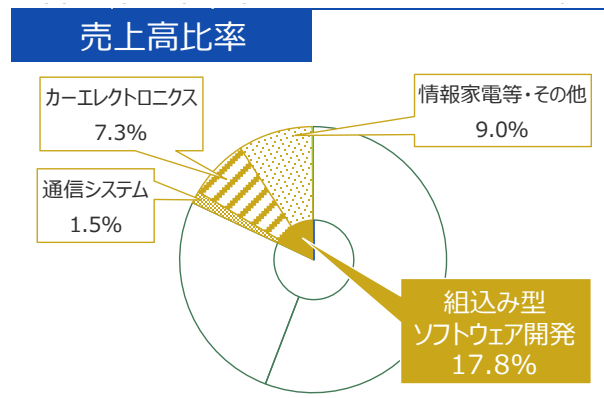
[単位：百万円未満切捨]

■ 組込み型ソフトウェア開発

- 通信システム … スマートフォン関連のプロジェクトが微増、現体制を維持。
- カーエレクトロニクス … 顧客からの増員要請も多く、インフォテイメント系、表示系を中心に好調。
- 情報家電等・その他 … テレビ、カメラ等のデジタル情報家電のほか、
子会社の制御系開発（鉄道、電気関連）が好調。
- 受注単価の見直しや生産性改善の取組み、開発体制の強化が奏功。

		17/03期	18/03期	19/03期	前年同期比	
1 Q 累 計	組 込 み 型	売上高				
		通信システム	154	117	120	103.2%
		カーエレクトロニクス	518	520	593	114.1%
		情報家電等・その他	611	630	733	116.3%
		セグメント利益	1,284	1,268	1,448	114.2%
		180 (14.1%)	211 (16.6%)	266 (18.4%)	126.3%	

【注】（ ）内の数字は利益率を表します。





② 今期の見通し



2.1. 業績予想 連結



[単位：百万円未満切捨]

- 業種・業態で濃淡があるものの、顧客のIT投資意欲は、旺盛。
- 第2四半期以降、人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野での成長を見込む。
- 2018年5月8日に発表した、業績予想に変更なし。

2Q 累計	18/03期				19/03期	
	17/5/9 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	18/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	16,000	108.5%	16,253	110.3%	17,300
売上総利益			3,025 (18.6%)	115.0%		
営業利益	1,360 (8.5%)	120.2%	1,469 (9.0%)	129.9%	1,480 (8.6%)	100.7%
経常利益	1,480 (9.3%)	115.2%	1,687 (10.4%)	131.4%	1,620 (9.4%)	96.0%
純利益	1,000 (6.3%)	115.2%	1,157 (7.1%)	133.4%	1,096 (6.3%)	94.7%
EPS 円/株	88.18		103.44		100.18	

通期	18/03期				19/03期	
	17/5/9 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	18/5/8 予想	前年 同期比
	売上高	33,200	107.5%	33,328	107.9%	35,500
売上総利益			6,308 (18.9%)	109.8%		
営業利益	3,000 (9.0%)	110.8%	3,091 (9.3%)	114.2%	3,280 (9.2%)	106.1%
経常利益	3,280 (9.9%)	106.6%	3,492 (10.5%)	113.4%	3,580 (10.1%)	102.5%
純利益	2,230 (6.7%)	109.2%	2,202 (6.6%)	107.8%	2,416 (6.8%)	109.7%
EPS 円/株	207.63		200.25		220.84	

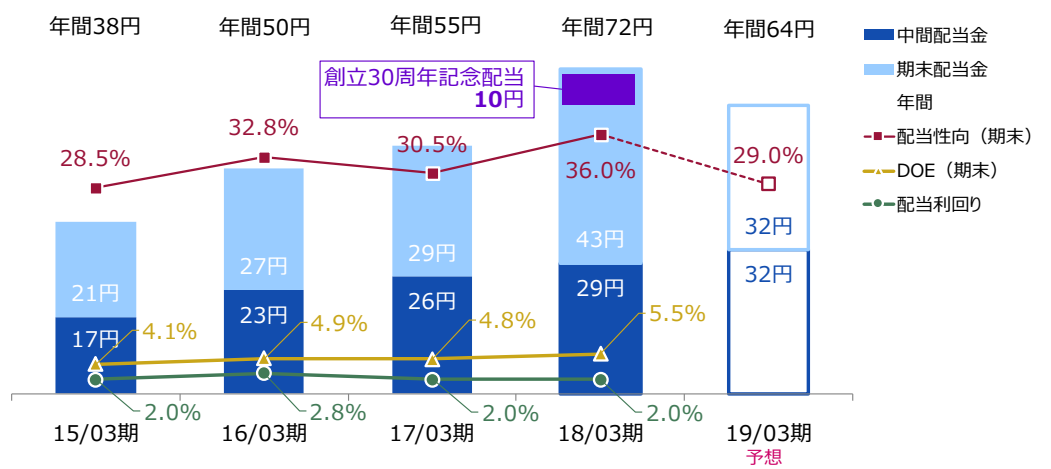
【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

[配当金総額：百万円未満切捨]

■ 2018年5月8日に発表した、配当予想 64円（中間32円、期末32円）に変更なし

	16/03期	17/03期	18/03期	19/03期	
	実績	実績	実績	18/5/8 予想	増減
中間	23円	26円	29円	32円	3円
期末	27円	29円	※ 43円	32円	-11円
年間	50円	55円	72円	64円	-8円
配当性向	32.8%	30.5%	36.0%	29.0%	-7.0%
配当利回り	2.8%	2.0%	2.0%		
DOE	4.9%	4.8%	5.5%		
配当金の総額	563百万円	623百万円	781百万円		

※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む



株主還元方針

- ▶ 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。特段の株主優待は行っておりません。
- ▶ 配当に関しましては、**当社(単体)**の経常利益を基に、特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



③ 第1四半期のトピックス



2018年04月11日

トピック

大阪事業所開設のお知らせ

当社では、営業拠点の広域化によるお客様サービス向上と事業機会の更なる創出を目的として、平成30年4月1日に大阪事業所を開設し、営業を開始いたしました。

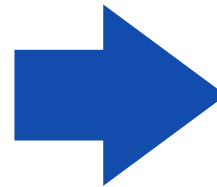
これを機に、お客様のご期待にお応えすべく、社員一同、一層の努力をいたす所存でございます。

今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

名称	株式会社クレスコ 大阪事業所
所在地	大阪府大阪市中央区本町4-2-12 東芝大阪ビル 2階
設立	平成30年4月1日
電話	080-7739-8918

6月15日開催の第30回定時株主総会および取締役会で決定しました。

代表取締役 会長	岩崎 俊雄
代表取締役 社長執行役員	根元 浩幸
取締役 専務執行役員	山元 高司
取締役 常務執行役員	杉山 和男 富永 宏 菅原 千尋 [退]
取締役	熊澤 修一
取締役 常勤監査等委員	丹羽 蔵王
社外取締役 監査等委員	臼井 義眞 佐藤 治夫
常務執行役員	菊池 淳 藤谷 栄樹
執行役員	丸山 規行 下川 恭正 工藤 博徳 高石 哲 粉川 徳幸



代表取締役 会長	岩崎 俊雄
代表取締役 社長執行役員	根元 浩幸
取締役 専務執行役員	山元 高司
取締役 常務執行役員	杉山 和男 富永 宏
取締役	熊澤 修一
取締役 常勤監査等委員	丹羽 蔵王
社外取締役 監査等委員	臼井 義眞 佐藤 治夫
社外取締役	福井 順一 [新]
常務執行役員	菊池 淳 藤谷 栄樹
執行役員	丸山 規行 下川 恭正 工藤 博徳 高石 哲 粉川 徳幸

高い専門性を持つ人材育成に取組み、社員によるエバンジェリスト活動を推進しております。

セミナー講師	2018/5/12	株式会社 SmartHacks 主催 「Alexaスキルを作ろう！開発ハンズオン#2」
セミナー講師	2018/5/24	特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構 主催 「エンジニアのためのHCD入門セミナー」
学会発表	2018/5/26～27	日本経営システム学会 「第60回全国研究発表大会」
展示会出展	2018/6/13～15	一般財団法人 インターネット協会、株式会社 ナノオプト・メディア 「Interop Tokyo 2018」
展示会出展	2018/6/12	日本IBM 株式会社 主催 「Think Japan – Business and Solution Day」
ブログ投稿	随時	クレスコ「エンジニアブログ」 https://www.cresco.co.jp/blog/





【ご参考】

A blue geometric pattern consisting of interlocking lines forming a complex, maze-like structure, resembling a traditional Japanese 'karakusa' or 'karakusa' pattern. The pattern is composed of thick blue lines on a white background, creating a dense, repeating design.

■情報サービス産業

- 企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みが、生産性改善に寄与するソフトウェア開発、システム開発の更なる需要を喚起。

■クレスコGroup

- コア技術(アプリケーション開発技術、ITインフラ構築技術、組込み技術)に先端技術(AI、IoT、ロボティクス等)を加えたクレスコグループの幅広い事業領域が優位性を発揮。
- 市場の変化に即した新規事業・サービスの開発、的確かつスピーディな先端技術(特にAIやRPA)の取込みに注力。
- グループ企業の再編を含む開発体制の強化や品質管理の徹底を通じて、リソースに応じた適正な受注量の確保と顧客満足度の向上に努めた。
- エバンジェリスト活動の一環として、技術研究の成果発表や各種サービス・ソリューションのプロモーション活動を推進。
- 良好な経営環境が継続している反面、エンジニア不足は、受託開発事業において、業績拡大のボトルネック。
- 全社的な生産性改善活動(自社向けのイノベーション活動)をはじめ、受注単価の引き上げや選別受注を積極的に実施し、トップラインの成長と収益性の改善に取り組む。

■情報サービス産業の動向

- 2018年3月の日銀短観では、
今後の設備投資の活況を示唆しており、中でもソフトウェアの投資額が拡大する。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2018」では、
40.7%の企業が2018年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 国内企業の業績が、概ね好調に推移していることから、
今後も豊富な手元資金をIT投資に振り向ける企業が増加する。
- 業界や業種により差はあるが、全体では省力化、競争力強化を主眼としたIT投資の増加や
2年後に迫った東京オリンピック、インバウンドへの対応などが下支えとなり、
IT投資のトレンドは引き続き拡大する。
- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、
デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、
システム開発の需要が確実に見込まれる。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、
IoT (Internet of Things) 、AI (人工知能) /機械学習、
運用自動化 (Robotic Process Automation) といった先端技術のトレンドと相まって、
投資意欲は一層拡大する。

- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム（AI、RPA）、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- クレスコグループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有しており、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業において、技術および品質の面から更なる強化を図る。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実させていく。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開していく。

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- ビジネス品質と生産性の向上による確実な成長
- M&Aによるグループビジネス規模の拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation
～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取組み

	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション 【※4】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコワイヤレス 【※1】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ・アイディー 【※1】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
アイオス 【※7】【※11】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ九州	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
科礼斯軟件（上海） 【※6】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/
シーズリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
エス・アイ・サービス 【※2】【※4】	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス 【※3】【※9】【※10】	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
エヌシステム 【※5】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●			
ネクサス 【※8】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●			
子会社総数	9	9	9	9	9	9	10	10	9	10	10	10	10	10	9	10	10			

【※1】 2015年4月1日付で「ワイヤレステクノロジー」は「クレスコ・アイディー」を統合し、「クレスコワイヤレス」に社名を変更

【※2】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化

【※3】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化

【※4】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合

【※5】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化

【※6】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算終了

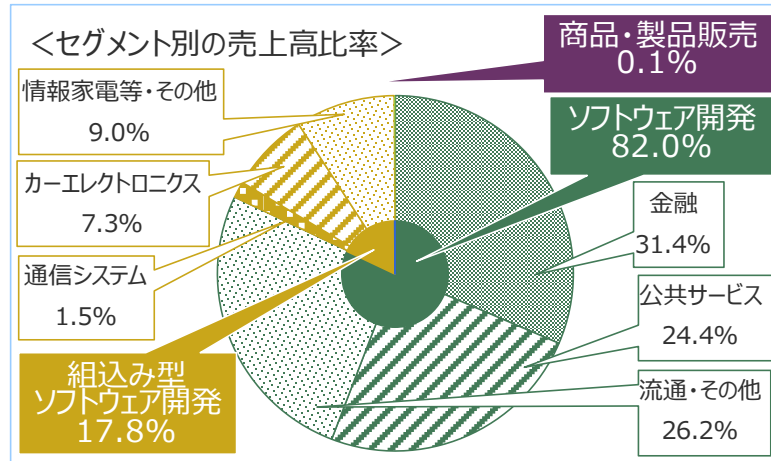
【※7】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化（当社の孫会社）

【※8】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※9】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

【※10】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※11】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険、カード、証券 etc.) ・公共サービス (航空、鉄道、電力、放送、医療、旅行、人材ビジネス etc.) ・流通・その他 (運輸、小売 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058